

武蔵野市第四期基本構想・長期計画策定委員会（第7回）会議要録

日 時 平成 16 年 1 月 7 日（水） 午後 7 時～ 9 時
場 所 武蔵野市商工会館 4 階市民会議室
出席者 東原委員長・小木副委員長・廣瀬委員・増山委員・村田委員・鵜川委員
古田土委員・永並委員・企画政策室長・企画調整課長・財政課長 他

1．開会

2．議事

（1）討議要綱について

各委員作成資料について説明を行い、その内容及び討議要綱全般について質疑応答を行った。

【委員長】市長の業績について、市政評価としてコメントすべきかどうかを提案したい。

重要な目標を取り上げて挑戦したか 目標は職員に明確かつ具体的に示されたか その際にトップが担当職員の職務を支援できたか その事業の総括はなされたか、という点に関し、評価すべき点は明示すべきと考えている。討議要綱案の「 . 考え方」の「(2)第四期長期計画の中心課題 / 持続可能な市政運営」では、計画の中心課題が“ 持続可能な市政運営 ” であるということを確認したい。次に「市民生活の防護」の「(1)基本的な考え方」として、安全の問題が重要課題で、リスクマネジメントの導入をあげ、リスク問題は現代において、自己責任の問題としている。また、リスクマネジメントがトップマネジメントであると書いた。「(2)自然災害対策と防災センター」では、防災センターが形態より中身（情報支援システム）が重要と記述した。「(3)その他の安全問題」では、今後市民の意見を得て補強し、安全なまちづくりの計画を策定したいとした。最後が「ITの活用」で、生産性とともセキュリティが最大の課題であり、慎重に見極めながら進むべきとした。

【委員】市長の個人的な手腕について、今まで言及した討議要綱はないと思うが。

【委員長】今回はじめて。意見がまとまれば載せていきたい。

【委員】策定委員会と個別の委員会、また市長との関係は。

【委員長】アカウンタブルという条件の元に、我々はフリーであるという認識がある。

【委員】「子育てプラン武蔵野」の基本理念の3番目に「地域で育てる」とある。「子育てプラン武蔵野」との関係はどう考えるのか。

【事務局】市には個別計画がそれぞれある。内容は色々書かれているが、財政的な制約もあるので、そこを総合的に判断し、長期計画に書きこんでいただきたい。

【委員】資料7の基本目標の で「子育てと仕事の両立への支援」とあるが、この基本目標は前から決まっていたか。

【事務局】12年12月に出されたものだ。来年度以降、改訂がある。

【委員長】個別計画の大部分は事業計画に反映されていると考えている。

【委員長】個別計画の論点は、一般論として誰も反対しないと思うが、具体的な施策になったときに、その部分は委員会として、やや強めに尊重するというイメージになる。

【委員】例えば、個別計画で一定の方向性が出ていた場合、それに対して“違う”という判断をしていいのか。

【委員長】反対と明記して反対するのがいいと思う。

【委員】例えば「子育てプラン武蔵野」の委員会は市長のもとに置かれた諮問機関だと思うが、策定委員会は同じような位置付けか。

【事務局】市長の諮問機関だ。ただ、位置付け的には異なり、この委員会は個別計画の上位計画である基本構想を立てていくことになる。

【委員】基本構想という点で、こちらが優先すると考えていいのか。

【事務局】個別計画を踏まえて、それらにプライオリティを付けていただく作業がこの委員会の任務であると考えている。

【委員】委員長の案において、計画の視点としての基本的な考え方の柱と、市長が重要課題としてあげたものと整合性がとれるか。計画の視点をあげていく場合、市長が重要課題として最初に出してきたものが柱になるのではないか。

【委員長】ここでは、市長の重要課題が大きな材料としてあり、議会や市民から寄せられてくる意見、第三期長期計画に関する評価、第四期長期計画の事業計画案、これらを素材にして我々が作っていくということを示している。

【委員】委員長は重要課題という部分は、例えばどういう項目を考えているか。

【委員長】施政方針の部分がいいと思っている。子ども育成、高齢社会、武蔵境、吉祥寺、防災安全、これらを列挙していけばいい。

【委員】前回は調整計画、今回は基本構想・長期計画であるが、その違いは何か。

【委員長】向こう10年というのが調整計画と違う。前回は、6年だった。

【事務局】調整計画も長期計画も基本的な策定方法は同じだが、10年間の長期計画の要約が基本構想となると考えていただきたい。

【委員長】討議要綱に記述していくのは、重点施策や、それを含む形の論点でもある。要するに市民に議論してもらいたいものを入れてかまわない。ただし、“これが論点ですよ”では議論が進まないのので、“我々はこう考えるけどどうですか”というところまで出さないといけない。なるべく考え方を明確に示し、最終的に修正を加えていけばいい。

【委員】現在の問題意識を書いた。大きな観点は2つ。一つは、ガバナンスと倫理の問題、もう一つは、財政支出と資源管理の効率化だ。「1．地方分権の推進と武蔵野市の基本理念、哲学、倫理」で、ガバナンスと倫理のことを書いた。「2．財政運営の透明性と責任の向上をめざして」では、財政運営、財政規律の考え方を示している。「3．経営改革の推進」は、基本的な理念、具体的な戦略計画の策定、実際の重点事業を述べている。「5．外郭団体の経営改

革」では、経営評価が必要としている。「6．税収アップ自分で稼ぐ」では、税収アップ策が何かあるか、高額所得者に住み続けていただくためには何が必要かを考えたい。「7．既存施設の有効活用」では、アセット・マネジメント・プラン（資産管理計画）をきちんと立てること、「8．外部評価・外部監査」では、研究が必要としている。

【委員】今回、討議要綱に、どのぐらいのレベルまで書くか。

【委員長】とりあえずは、各自持ち寄り、その後全体で調整すればいいと考えている。

【委員】自分が問題意識を持っている部分を書いていいということか。

【委員長】そうだ。重点課題を全部拾い上げて、方向性を出す必要がある。

【委員】民間委託、NPOという課題が出てきているが、規制緩和についての記述があればいい。

【委員】監獄を民営化するという話があるが、アメリカではすでにやっている。規制緩和については、経営とか財政のことに詳しい方に踏み込んでいただきたい。セーフティーネットの部分も、株式会社でできないわけではないと思う。

【委員】公がやらなければならない部分は、ほとんどないかもしれない。

【委員長】その辺も議論をしておく必要がある。

【委員】救命救急は、アメリカでは民間かNPOがやっている。イギリスは日本と同じように保険制度がいろいろと面倒を見るようだ。そういった根本的な制度の問題があるので、民営化できるとか、できないとかというのは、哲学が基本にあると思う。

【委員】イギリスに関しては、医療とか年金とか手厚い。アメリカはほとんどそういうのがない。どちらがいいか考えると、やはり手厚いほうがいいと思うが、サービスの供給は、できる限り安くしたほうがいいと思う。

【委員】イギリスは病院も全部公共か。

【委員】国立病院は無料だ。

【委員】しかし、財政難で、予算を削ったために、入院するのに何カ月も待たなくては行けないという弊害も出てきている。

【委員長】アメリカでも、医療費が非常に高くなっている。株式会社はいい面もあるが、よくない面もあるということだ。

【委員】だから、それをどう評価するかという理論が必要だ。

【委員長】いわゆるアウトソーシングの問題はかなりの議論があるし、やろうとするともめるところもある。我々として、理論を固める必要がある。